

## 第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成28年9月28日(水)  
児 童 4年 男6名 女13名 計19名

- 1 単元名 登場人物の気持ちの変化をとらえ、「気持ちグラフ」で紹介しよう  
中心学習材 「ごんぎつね」(東京書籍 4年 下)  
補助学習材 新美南吉の図書

### 2 付けたい力と言語活動

#### 《主となる指導事項》

- ◎場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。(読ウ)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方についての違いのあることに気付くこと。(読オ)

#### 《付けたい力》

- ◎場面の移り変わりとともに変化する中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化について、叙述を基に想像して読む力。
- 友達との学び合いを通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気付く力。

#### 《言語活動とその特徴》

- ◇場面の移り変わりとともに変化する中心となる人物と他の人物の関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化を想像し、「気持ちグラフ」で紹介する。
- ◆人物の心の動きを折れ線グラフに表すためには、登場人物の行動と会話に着目し、気持ちを想像して読む必要がある。グラフに表すことにより、人物の気持ちの変化を、叙述を基に想像して読むことができる。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

児童は、「読むこと」のウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」に関して、4年上「こわれた千の楽器」の学習では、会話や行動から登場人物の気持ちについて想像して読み、音読発表会を開く活動を行った。また、4年上「走れ」の学習では、中心となる人物の気持ちが分かる行動や会話に着目しながら、場面を対比させて登場人物の様子や気持ちを想像したり、中心となる人物の変化をとらえたりする学習を行った。場面の移り変わりに注意しながら、中心となる人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読む力は身に付いてきている。

また、オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと」に関しては、「走れ」で、並行読書してきた本の中心となる人物の変化をとらえ、その理由を「本のとびら」にまとめ、交流する活動を通して、同じ本でも、人それぞれ、感じ方が違うことに気付くことができるようになってきた。

しかし、場面の移り変わりとともに変化する中心となる人物の気持ちの変化には、他の人物との関わりが大きく影響することを理解し、気持ちの変化の理由についてとらえる力は十分に身に付いているとは言えない。

## (2) 学習材について

第4学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる」である。これを受けて本単元では、「中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化を想像して読む」を主目標とする。

中心学習材「ごんぎつね」は、中心となる人物であるごんの視点で多くが書かれており、ごんの気持ちやその変化がとらえやすく、場面の展開に沿って、人物の性格や気持ちの変化を想像しながら読む力を育てるのにふさわしい作品といえる。また、「時」や「場所」の設定に着目すると、場面分けが明確に構成されており、それぞれの場面における登場人物の気持ちを関連させながら読むことによって気持ちの変化に気付き、読みを深めることができると考える。

## (3) 指導について

第一次では、作者である新美南吉についてふれ、その生涯やどんな作品があるのか興味を持たせたい。また、3年生で学習した「サーカスのライオン」の「気持ちグラフ」のモデルを示す。そして、「登場人物の気持ちの変化をとらえ、『気持ちグラフ』で紹介しよう」という言語活動を提示する。そのために、第二次では、中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化について行動や会話に着目し想像を膨らませながら読んでいくという見通しをもたせるようにする。

第二次では、ごんと兵十の「気持ちグラフ」を書くことを通して、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを考えていく。「気持ちグラフ」に表すために、ごんと兵十の気持ちを行動や会話を基に想像したことを、付箋に書き、グラフに表す手立てにする。また、グループや全体での交流を取り入れることで、様々な考え方にふれ、豊かに想像しながら読むことができるようにしていきたい。「気持ちグラフ」に表す際には、前の場面と比較しながら中心となる人物の気持ちの変化をとらえたり、変化するきっかけとなった出来事や他の人物との関わりをとらえたりすることで、物語全体を通して人物の気持ちの変化を考える楽しさを味わえるようにしたい。そして、一人一人の「気持ちグラフ」を交流し、自分と似ているところ、違うところについて話し合い、読みを深めていきたい。

第三次では、これまでの第二次の学習を生かして、並行読書をしてきた本の中からみんなに紹介したい本を選び、「気持ちグラフ」にまとめる。まとめる時には、並行読書した本を記録したものや登場人物の気持ちが変化したと思ったところや理由にあたる場所に付箋を貼り、印をつけたところを参考にできるようにする。完成したものは、友達に紹介し、その感想を伝え合う。感想を伝え合うことで、一人一人の感じ方の違いについて気付くことができるようにする。

### <中心教材と言語活動>

4月 「こわれた 千の楽器」 場面の移り変 わりに注意しな がら、人物の様子 や気持ちを思い 浮かべて読み、音 読発表会を開く。 (音読発表会)	6月 「走れ」 場面の移り変 わりに注意しな がら、中心となる 人物の気持ちの 変化とその理由 について考えて 読み、本のとびら を作る。 (本のとびら)	9月(本単元) 「ごんぎつね」 場面の移り変わりとと もに変化する中心となる 人物と他の人物との関わ りをとらえ、それぞれの 気持ちの変化について想 像して読み、気持ちグラ フに表す。(気持ちグラ フ)	12月 「世界一美しい ぼくの村」 物語の中心と なる事柄や表現 の細かい点に着 目して読む。ま た、言葉や文を引 用して紹介文を 書き、読書会を行 う。(読書会)	2月 「木竜うるし」 場面の様子や 人物の気持ちの 変化をとらえ、音 読劇を行う。 (音読劇)
---	---	--	--	---

#### 4 単元の指導目標と評価規準, 指導計画

##### (1) 単元の指導目標

○物語を読むことに興味を持ち, 中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読もうとしている。

【関心・意欲・態度】

◎中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ, それぞれの気持ちの変化について, 叙述を基に, 想像して読むことができる。

【読むこと ウ】

○人物の気持ちの変化やその理由について話し合い, 一人一人の感じ方に違いがあることに気付くことができる。

【読むこと オ】

○表現したり, 理解したりするために必要な語句を増やしている。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(オ)】

##### (2) 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
○場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちに関心を持ち, 叙述を基に想像したことを, 「気持ちグラフ」に表そうとしている。	◎場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちについて, 叙述を基に想像して読み, 「気持ちグラフ」にまとめている。(Cウ) ○「気持ちグラフ」を発表し合い, 一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(Cオ)	○言葉には, 考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 (伝国(1)イ(ア))

(3) 単元指導計画 (全13時間)

	【 主な学習活動 】	【 評価 】
<p>第一次 単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。</p>	<p>①「気持ちグラフ」のモデルを見て、学習の見通しをもつ。 ②初発の感想を交流する。</p>	<p>①「気持ちグラフ」にまとめるために、必要なことを理解し、課題に取り組もうとしている。 (発言・振り返り) ②「ごんぎつね」を読んで感じたことを書いている。 (Cウ) (ノート・発言)</p>
<p>第二次 場面の移り変わりとともに変化する中心となる人物と他の人物との関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化について、叙述を基に想像して読む。</p>	<p>③あらすじをつかむ。 ④ごんの気持ちを、叙述を基に想像して付箋に書く。 ⑤兵十の気持ちを、叙述を基に想像して付箋に書く。 ⑥⑦ 付箋を基に、ごんと兵十の気持ちの変化を「気持ちグラフ」にまとめる。 (1～5場面) ⑧6場面のごんと兵十の気持ちの変化をとらえ、「気持ちグラフ」にまとめる。(本時) ⑨「ごんぎつね」の「気持ちグラフ」を振り返り、学習のまとめをする。</p>	<p>③それぞれの場面で起こった出来事について内容の大体をとらえている。 (Cウ) (ノート・発言) ④⑤ ごんや兵十の行動や会話を基に、それぞれの気持ちを想像して読んでいる。 (Cウ) (ノート・発言) ⑥⑦ 場面の移り変わりとともに、変化するごんと兵十の関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化について、叙述を基に想像しながら、「気持ちグラフ」にまとめている。 (Cウ) (ノート・発言) ⑧ごんの気持ちの変化について、兵十との関わりや叙述から、根拠を明確にして考えている。 (Cウ) (ノート・発言)</p>
<p>第三次 並行読書してきた本の中からお気に入りの1冊を選び「気持ちグラフ」にまとめる。</p>	<p>⑩⑪ 並行読書してきた本からお気に入りの本を選び、中心人物の気持ちの変化を「気持ちグラフ」を作る。 ⑫⑬ 「気持ちグラフ」を発表し合い、自分の読みを深める。</p>	<p>⑨「気持ちグラフ」を交流し、自分の読みとの共通点や相違点を見つけ、読みを深める。 (Cオ) (ノート・発言) ⑩⑪ 選んだ本の中心となる人物とその他の人物の関わりをとらえ、それぞれの気持ちの変化について想像しながら読んでいる。 (Cウ) ⑫「気持ちグラフ」を交流し、自分の読みとの共通点や相違点を見つけ、読みを深める。 (Cオ) (ノート・発言)</p>

## 5 本時の指導

### (1) 目標

ごんと兵十の気持ちを叙述を基に想像し、ごんの気持ちの変化を読み取ることができる。

### (2) 展開

段階	学 習 活 動	指導の要点・留意点・評価
		○指導の要点 ・ 指導の留意点 ※評価箇所
導 入 5 分	1 前時の学習内容を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 ごんと兵十の気持ちを想像し、気持ちの変化をグラフに書き表そう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返されるつぐないには、ごんの強い思いがあったことを確認する。</li> </ul>
展 開 35 分	3 学習課題を解決する。 (1) 学習の見通しをもつ。 (2) 学習場면을音読する。 (3) グループで話し合いながら、「気持ちグラフ」にまとめる。 (4) 全体で交流する。 (5) 交流したことを生かして、自分の「気持ちグラフ」を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんや兵十の気持ちの変化をとらえるために、行動や会話に着目して音読することを確認する。</li> <li>○友達の考えと自分の考えの共通点や相違点をとらえながら聞くように話す。</li> <li>○一人一人の感じ方や考え方を認め合い、読みの世界を深めたり広げたりできるようにする。</li> </ul> <p>※評価規準 <b>B</b>            ごんと兵十の気持ちを、叙述を基に想像し、それぞれの気持ちの変化をとらえ、グラフに書き表している。(Cウ)            (ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を自分の読みに生かし、「気持ちグラフ」に書くように話す。</li> </ul>
終 末 5 分	4 学習のまとめをする。 ・本時の振り返りを発表する。 5 次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りは、学習して分かったことと、友達の考えを聞いて分かったことについて書くようにする。</li> </ul>

(3) 板書計画

